論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※　乙　第　　号

氏　　名　　片岡　崇

論　文　題　目

Relationship between epicardial adipose tissue volume and coronary artery spasm

（心臓周囲脂肪と冠攣縮の関連についての検討）

論文審査担当者　　名古屋大学教授

主　査　　委員　　六鹿　雅登

名古屋大学教授

委員　　坂野　比呂志

名古屋大学教授

委員　　梅垣　宏行

名古屋大学教授

指導教授　　室原　豊明

別紙１－２

論文審査の結果の要旨

今回、CT にて心臓周囲脂肪と腹部脂肪、腹部内臓脂肪を測定しアセチルコリン負荷試験での冠攣縮陽性群、冠攣縮陰性群に分類しそれぞれの関連を確かめた。ベースラインの特徴としては冠攣縮陽性群、冠攣縮陰性群と攣縮陽性群で喫煙率が有意に高かったが、その他、年齢、性別、既往歴、血液検査項目などは２群間に有意な差は認められなかった。統計解析の結果、心臓周囲脂肪量に関しては冠攣縮陽性群が冠攣縮陰性群と比較して有意に多い結果であった。一方総腹部脂肪面積、腹部内臓脂肪面積に関しては冠攣縮陽性群、冠攣縮陰性群で有意な差は認められなかった。多変量ロジスティック解析では心臓周囲脂肪量は冠攣縮において有意な予測因子であることが示された、一方総腹部脂肪面積、腹部内臓脂肪面積は有意な関連は認めなかった。心臓周囲脂肪量は腹部内臓脂肪と比較して冠動脈攣縮に強く関与している可能性が示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1.脂肪組織はサイトカインやケモカインなどのアディポサイトカインを産生し全身に影響を及ぼし血管内皮障害を引き起こすことが知られている。冠攣縮は内服機能障害によって引き起こされる。心臓周囲脂肪は腹部内臓脂肪と比較し心臓に隣接しているため冠攣縮に関連が強いことが予想される。今回の研究はその仮説を支持するものであった。

2.心臓周囲脂肪は冠危険因子や冠動脈石灰化とは独立した、将来の冠動脈イベント発生にかかわる有意な危険因子と報告されている。また虚血性心疾患だけではなくうっ血性心不全や心房細動などの心疾患もリスク因子であることも報告されている。

3. 心臓周囲脂肪と末梢血管障害との関連は現段階でははっきりしていない。今後さらなる検討が必要と考えられる。

4.心臓周囲脂肪が増加する要因としては腹部降坊と同様に脂質異常、糖尿病、BMI 高値などが挙げられている。運動療法、食事療法、薬物療法を行うことで心臓周囲脂肪量が減るとの報告がある。内臓脂肪との比較で心臓周囲脂肪を特異的に減少させる治療法に関してはまだはっきりとはしていないため冠攣縮今後のさらなる検討が必要と思われる。

本研究は、心臓周囲脂肪量は腹部内臓脂肪と比較して冠動脈攣縮に強く関与している可能性を示唆した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するのにふさわしい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第　　号	氏　名	片岡　崇
試験担当者	主査　六鹿　雅登　　副査1　坂野　比呂志 副査2　梅垣　宏行　　指導教授　室原　豊明		

（試験の結果の要旨）

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1．心臓周囲脂肪と冠攣縮が関連する原因について
2．心臓周囲脂肪とその他の心疾患との関連について
3．末梢血管に対する心臓周囲脂肪の関連について
4．心臓周囲脂肪量の増加する要因、減少させる治療について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、循環器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。

別紙3

学力審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙　第　　号	氏　名	片岡　崇
試験担当者	主査　六鹿　雅登 副査$_2$　梅垣　宏行	副査$_1$　坂野　比呂志 指導教授　室原　豊明	

（学力審査の結果の要旨）

名古屋大学学位規程第１０条第３項に基づく学力審査を実施した結果、大学院医学系研究科博士課程を修了したものと同等以上の学力を有するものと学位審査委員合議の上判定した。